

一粒耕心

徹底した圃場管理で 高品質な『白神ねぎ』の生産に励む

就農のきっかけ

開拓した広大な耕地が広がり、背後には雄大な白神山地区がそびえ立つ、風光明媚な地区で「白神ねぎ」を栽培する菊池正さん。大学卒業後は民間企業に就職しましたが30歳の時、農業への思い、特にね

ぎ栽培について強く興味を持ち地元へ帰ることを決断しました。就農して14年。現在は、白神ねぎの他に水稲と大豆の複合経営を営んでおり、この時期は、秋冬ねぎの収穫作業や稲刈りなど忙しい日々を送っています。



能代市比八田字十二ヶ村
菊池 正さん

栽培へのこだわり

現在、菊池さんの圃場では夏ねぎでは「夏扇パワー」、秋冬ねぎでは「夏扇4号」の2品種を栽培しており、今後は面積拡大も視野に入れていきます。

栽培について菊池さんのこだわりは、細物を作らない、L・2Lサイズの出荷をメインにするというもの。土寄せや追肥のタイミング、病害虫防除などこれまでの経験で培った技術力で高品質な「白神ねぎ」を栽培しています。また、JAから発信されるメールマガジンも欠かさず見て対策を考えるそうです。「防除対策をはじめ現在の単価など、最新の情報を圃場でも見ることができるので大変役立つ」と菊池さん。経験豊富な情報力で栽培に励んでいます。

今後に向けて

自分自身の栽培にこだわりを持つ

JAあきた白神の主力作物である「白神ねぎ」。昨年度は過去最高の14億2,353万円を記録し、今年も順調に販売額を伸ばしています。白神ねぎは、春ねぎ、夏ねぎ、秋冬ねぎ、雪中ねぎとほぼ周年で栽培されています。白神山地の恩恵をいっぱいを受けた「白神ねぎ」は、太くて、軟らかく、とろけるような味わいでありながら、シャキシャキした歯ごたえが特徴で、これからの時期、鍋物にはぴったりです。

て取り組む一方、158人（平成30年3月末）が所属するねぎ部会の副部長も務めている菊池さん。栽培技術と品質の向上を目指して「白神ねぎ」のブランド力向上と産地の底上げに貢献しています。「3年連続販売額10億円を達成して今年度は15億円を目指して頑張っている。ねぎは高単価で推移している作物の一つなので、この勢いによって目標を達成したい」と力強く話してくれました。

経営規模	
ネギ	70 a
水稲	80 a
大豆	17 ha



↑ 掘り取り作業を行う菊池さん

